

ている強みを生かし、他の地域の法人、施設との連携が取れる体制構築が必要であるといえます。

私たち「日本福祉施設士会」に所属する会員は、全国に1000名を超えて存在しており、日本

福祉施設士会として、大規模災害における支援ネットワークを構築することにより、何時起こるかわからない身近な大災害に立ち向かうことができるのではないかと考えます。

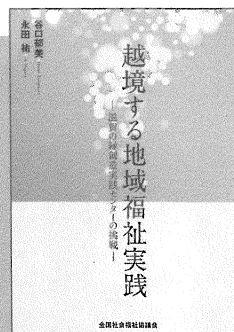
気づいた人が思いを持ち寄り創り出す地域福祉協働実践

越境する地域福祉実践

— 滋賀の縁創造実践センターの挑戦 —

2014年に民間福祉の有志で創設した「滋賀の縁創造実践センター」は、「自覚者が責任者」(糸賀一雄)を合言葉に、生きづらさを抱えて暮らしている人の現実から目をそらさず、できることの具体化に取り組んできました。家庭の事情等を抱えた子どもの夜の居場所づくり、社会的養護の子どもたちの自立支援など、制度のはざまにある課題解決のためのモデル事業や、分野や立場を越えた地域ぐるみのプラットフォームづくりなどを行い、大きな成果をあげてきました。本書は、取り組みの原点にある気づきを持ち寄り協働実践につないでいく場づくりなど、分野を横断した地域福祉協働実践を創り出すプロセスと可能性を明らかにする、「地域福祉実践にかかわる人」の必読書です。

●谷口 郁美 永田 祐 著 ●A5・204頁 ●定価 本体1,200円(税別) ●2018年1月発行



●お申込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会または下記へ●

■全社協出版部 受注センター■
TEL 049-257-1080 FAX 049-257-3111
E-mail: zenshakyo-s@shakyo.or.jp

全社協

社会福祉法人全国社会福祉協議会 出版部
〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2
新霞が関ビル

福祉関係図書の
検索・注文ができる
ホームページ

福祉の本出版目録

<http://www.fukushinohon.gr.jp>

検索

もっとも障害の 重たい人たちと共に

(長崎県)

社会福祉法人山陰会 普賢学園 副園長

本田 尚久

(障-41期 No.5547)



1 私たち普賢学園が大切にしている想い

“もっとも障害の重たい人たちの事を考える事は、全ての人たちの事を考える事につながる。”私が感銘を受けたある記者の方の言葉だ。障害者支援施設 普賢学園では、年間30件から40件以上の入所の問い合わせを日本全国からいただく。緊急性が高く支援困難な事例も多く、重度の知的障害や行動障害のある方が大半だ。本人の生きづらさやご家族の悲痛な思いを伺う度に心が苦しくなる。“少しでもお役に立てれば”との思いでこの4年間で30数名の方を受け入れて来た。たとえ地域生活や家庭生活から一度離れてしまったとしても、いつか本人やご家族の望む生活を取り戻す。我々はそのために全力を尽くす。入所施設は障害福祉のセーフティネットであり、地域移行の起点であると私は考える。それは24時間365日障害の重たい人たちと共に歩む我々の責任でもあり、24時間365日障害の重たい人たちを支える職員が誇り

に思って欲しい事でもある。

2 福祉の道へ

私が障害福祉の道を志すようになったのは中学生の頃である。園長をしていた祖父は質素で飾らず、人の生き方や心の在り方を通じて障害のある方の支えがいかにあるべきかを日々摸索していた。80歳を超えても学び続ける真摯な姿に私は強い憧れと尊敬の念を抱いていた。両親はどちらも世話焼きで、長年議員を務めた父は困っている人がいれば進んで手を差し伸べ、保育士の母は卒園した園児に気になる子がいればずっとサポートを続けていた。当時の私にとっては家族団欒を阻害されているようで、正直あまり面白いものではなかったが、今考えれば”地域を支える”事をごく自然に行っていた両親に対して改めて尊敬の念を抱く。そんな家族の姿を見て、私もいつか“福祉”という道を歩みたいと思うようになっていった。